



# ちば市老連だより



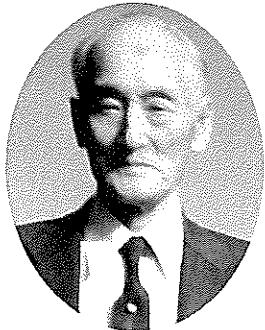
第12回全国都市緑化ちばフェア1995年8月25日～10月22日

## 目 次

1. 法人設立記念式典及び祝賀会	2
2. ブラジル日系老連創立20周年祭参加感想記	
ブラジル日系老連創立20周年祭に参加して	5
パラグアイ・ラ・コルメナの思い出	7
3. 会員増強運動について—単位クラブの事例—	9
4. 「友愛活動」介護ボランティアに参加して	14
5. 小学生との交流活動	16
6. 地区連ニュース	18
7. 編集後記	19

## 1. 法人設立記念式典及び祝賀会

## 法人設立記念式典に寄せて



市老連会長 波多野 透

わが市老連が結成されてから33年の節目の年を迎え、市老連の年来の念願であった夢が実現し、設立記念式典が多くのご来賓の臨席のもとに開催されますことは、誠に慶賀の至りで、万感胸に迫り、只、感激の一語につきます。

さて、市老連は、戦後千葉市の急速な発展、人口の急増に伴い年毎に会員が増加し、従ってその組織規模も肥大化してきました。その間、昭和58年をピークに構成員の高齢化、クラブの離合、集散等の諸事情により、クラブ・会員数とも減少傾向を示し、現在クラブ数約400、会員数約20,000を擁し、千葉市が政令指定都市移行に伴う6区制に準じて、各区に区老連を設置しました。現在、市老連は、市当局のご指導と会員各位の協力により、社団法人設立を契機に新しい「都市型市老連」を指向し、先進政令指定都市の老連に追いつけ、追い越せの意気込みで新事務局体制の充実・強化、クラブ活動の活性化推進を図り、「明るい地域社会づくり」に寄与する所存でございますので、会員各位の協力は固より、地元の自治体、友好諸団体のお力添えを、切にお願い申し上げます。

想えば、平成3年の財団法人設立の構想が突如挫折し、関係者一同茫然自失、一時は失意の心境で先行きが憂慮されましたが、この度の快挙で心機一転し、本会の活性化が益々促進されるものと確信いたします。

終わりに、本会の法人化課題の抬頭について一言申し添えます。

去る、昭和58年当時の市福祉部長 佐藤正氏、並びに市老連会長 鈴木長治氏ご両者の英断により、市老連の法人化構想が提唱され、先ず、その手始めに「法人化について」の研修会を、高崎市長寿会連合会（昭和57年6月社団法人許可）のご協力を得て、同市において開催しました。その後、研修会に参加された佐藤部長、並びに鈴木会長は、研修会の成果を参考に、千葉市老連の法人化構想を具体化すべく当時の総務部長の小生に試案作成を指示されました。これを契機に法人化の課題は、漸く始動期を迎えるました。この度の法人設立をわが意を得たりとばかりに心底から悦んでおられるのは、今は亡き佐藤・鈴木の御両人で、今更ながらお二人の先見性豊かな高邁な見識には畏敬の念さえ覚え、心から敬意を捧げるとともに、後輩としてその責任の重大さを改めて痛感する次第であります。

# 法人設立記念式典

平成7年11月28日 於 ちば玉姫殿

1. 開式のことば

- 1. 黙とう 物故された会員へ追悼
- 1. 国旗礼拝
- 1. 国歌齊唱
- 1. 市老連歌齊唱
- 1. 式辭 (社)千葉市老人クラブ連合会会長
- 1. 経過報告
- 1. 来賓祝辞 千葉市長  
千葉市議會議長  
(財)全国老人クラブ連合会常務理事
- 1. 来賓紹介、祝電披露
- 1. 宣言
- 1. 閉式のことば



~~~~~ 休憩 ~~~~

## 祝賀会

- 1. 開会のことば
- 1. 会長挨拶
- 1. 来賓祝辞
- 1. 乾杯
- 1. 懇談
- 1. 万歳三唱
- 1. 閉会のことば

## 宣 言

今や、わが国は、名実ともに高齢社会に突入し、まさに人生80年時代を迎えた。そこで、人生後半の65歳以降の約20年間を充実した日常生活を送るためには、先ず、高齢者各自が、多年にわたり培ってきた知識、経験及び技能を最大限に活用し、組織力を基本に、地域に根ざした諸福祉活動を、この際、全面的に展開することが当面の重要な課題である。

「心豊かな21世紀を……」のスローガンのもとに、健康、友愛及び奉仕の運動を地域の担い手として実践し、微力ながら地域社会に貢献してきた各老人クラブが、今こそ、政令指定都市の面目にかけて、その役割と地域住民の期待の重要性を確認し、全会員の総決起を目指すものである。

とき、恰も、去る10月1日、市当局のご指導のもと会員各位の協力により、わが市老連年来の念願であった法人化が実現し、ここに、「社団法人千葉市老人クラブ連合会」が発足した。

これを機に、心も新たに「長寿社会にふさわしい老人クラブづくり」の推進に寄与することを決意し、次の事項の実践を約し、ここに宣言する。

1. 本会の事務体制強化と法人化移行に伴う諸規程の整備
1. 会員の増強活動の促進
1. 「老人クラブ21世紀プラン」の推進
1. 地域諸団体との交流と女性リーダーの育成、登用
1. 市老連活動財源の確保

平成 7 年 11 月 28 日

社団法人千葉市老人クラブ連合会

## 2. ブラジル日系老連創立20周年祭参加感想記

## ブラジル日系老連創立20周年祭に参加して

高砂会 太田和 光子

本年は日伯修好通商条約の締結から、100周年を迎え、1908年、第1回の移民を開始して以来、日伯交流の流れが太くなつていったのです。日本の移住者はブラジル政府からの無償交付の土地はなかったと伺っています。棄権にも似た過酷の扱いの中で、耐えに耐え働き続け一人一人が語りつくせない壮絶のドラマを持っている。

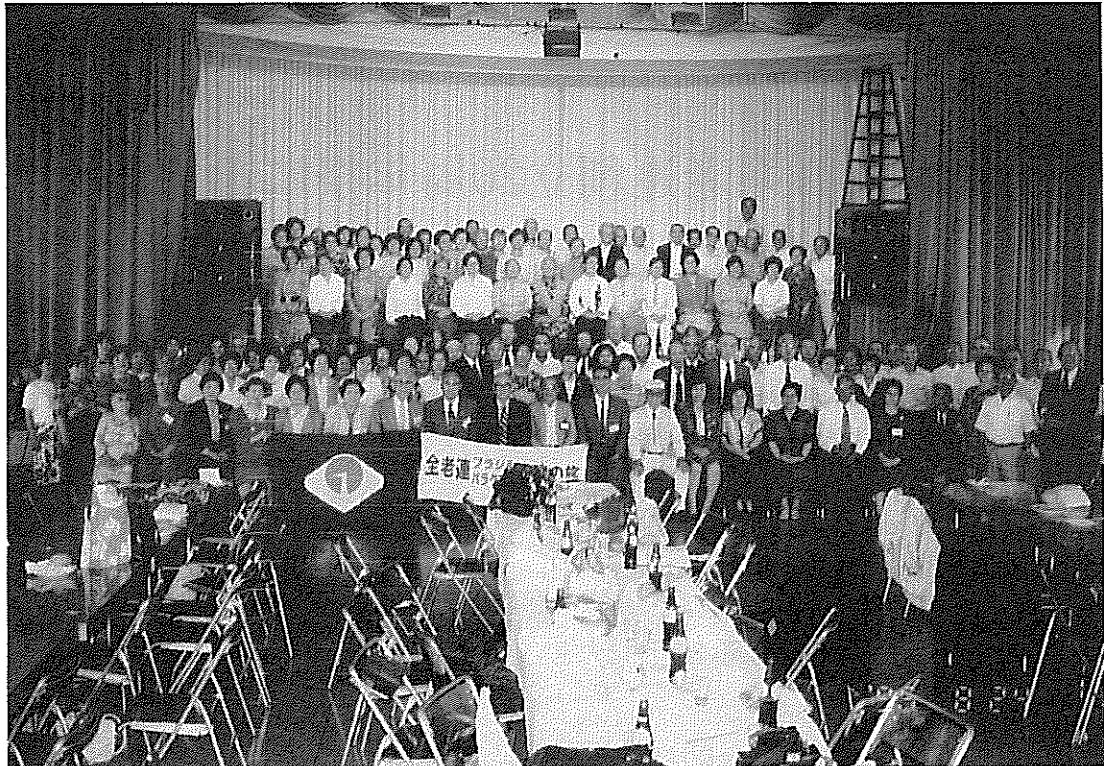
しかし、その間日本人としての誇りを持ち続け現在は、日系移住者は農業を始め、国の経済にも大きく貢献し、各分野への進出、その功績は非常に大きいとされています。ブラジルでは日本人なくして語れない存在になっている。

8月30日、ブラジル日系老連真鍋会長は創立20周年記念祭典を文化センター記念講堂で盛大に行いました。

この日、開会前朝早くから開場を待つ人達の長い行列が出来、パラグアイ、アルゼンチンからも参加者があり、立見席が出る程で1,500人もこの記念講堂に集まつたことは初めてのこと、会場内はエキサイティングしておりました。

式典は式次第通りに進み、多数の来賓も参加され、在サンパウロ総領事田中克之氏は「会場がこれだけの人で埋まり、老人パワー爆発という感がします。遠慮なく自分の思っていることを言って、若い世代を指導して下さい。今後の日伯関係は日本語教育を欠かせない。また今日参加出来なかつた病のある





方に話しかけてあげて下さい。」との要旨を参加者に激励して下さいました。

次いで午後からは、全老連見坊常務理事の講演「創造と連帯の輪をひろげて」日本の老人クラブ活動について話され、これまでの来伯した思い出を語りながら、日系人が日本的心を大切にし、誇りをもつているとし、失われつつある日本の姿が生き続けていることに感動した等、先の阪神大震災では死者の8割が高齢者だったことを報告、ブラジルから多額の義援金が送られたことに謝辞を述べ、被災者の大きな励みになった喜びを語り、世界は平和、共存、協調の時代に入りブラジル日系人とも心を一つにして、次の時代の一翼を担いたいと語る。

その後はお待ちかねのアトラクションが始まる。並木路子さんが日本から派遣され観客との対話を交えながら「湖畔の宿」「リンゴの唄」など、又着物ショーあり、千葉県老連副会長の鈴木経子さんが日本舞踊を披露し、場内は最高潮に達しました。又会場ロビーには会員の力作の作品が展示され、その心意気に感動しました。

そのほか、滞在中、サンパウロから100キロも入ったカンピーナス移住地の訪問、更にパラグアイのラ・コルメナ移住地にも訪問、有意義な交流が出来、日本の価値観の違いを深く感ぜられました。

また、イグアスを訪問、世界一といわれる、イタイプの発電所見学、次いでイグアスの滝を見学、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ三ヶ国の国境に接するパラナ川とイグアス川の合流点付近にある世界最大の滝、その雄大なスケールの迫力は300に近い滝からなっており、その距離は総計4キロとされている。この滝を見にきたアメリカのブッシュ大統領夫人は、「これではナイヤガラの滝がかわいそうだ」と言われたとのガイドの説明でした。

ヘリコプターから見ますと、あちこちに虹が出て手にとれる様で、まさに大宇宙、大自然の壮観さに感動の連続でした。今回の旅の一コマをのべさせて頂きました。

オブリガード。日本語で有難うございました。

## パラグアイ、ラ・コルメナの思い出

花見川みのり会会長 宮 口 みつい

此の度ブラジル日系老連創立20周年記念祭参加と、南米2ヶ国訪問の交流団の一員として参加させて頂きました。

特に心に残ったパラグアイ、ラ・コルメナの思い出を書きました。

パラグアイの首都アスンシオンのホテルを出てバスで約2時間30分ようやくラ・コルメナに着きました。7、8名の役員の方々が待ちこがれていたかの様にバスにかけ寄り、暖かい笑顔一杯で私達を迎えて下さいました。

会場の入口には大勢の人達がやはり暖かい笑顔で、「遠い所からようこそ来て下さいました。」と、親しい友との再会を喜ぶような雰囲気で迎えて下さいました。私達も「今日は、今日は」と心はずむ思いで握手を交わし合いました。

真っ直ぐに「開拓先没者の碑」に向かい献花を致しました。説明に依れば244名の御靈が祭られ、多くは40代、50代の方々が貧困と過労で亡くなり又幼児の死亡の多かった事を聞きました。

開拓とは、いかに命をかけての厳しいものであったか、244名の御靈が語って下さっているかの様で、参加者一同、目頭を抑え心から深く御冥福をお祈り致しました。

日本語学校の前を通って会場に向かい、「ラ・コルメナ福寿会主催交流会」が開催されました。

各役員幹部の挨拶、日本からのお土産の贈呈、自己紹介等が行われ、最後にお誕生会の祝が行われました。偶然にも交流団の中で私ともう一人がお祝いをして頂き感無量でした。

私の69歳の誕生日を、南アメリカのパラグアイ、ラ・コルメナの地でして頂くとは、何と素敵なお人生でしょうか。人生最高の歴史を作つて頂く事が出来ました。

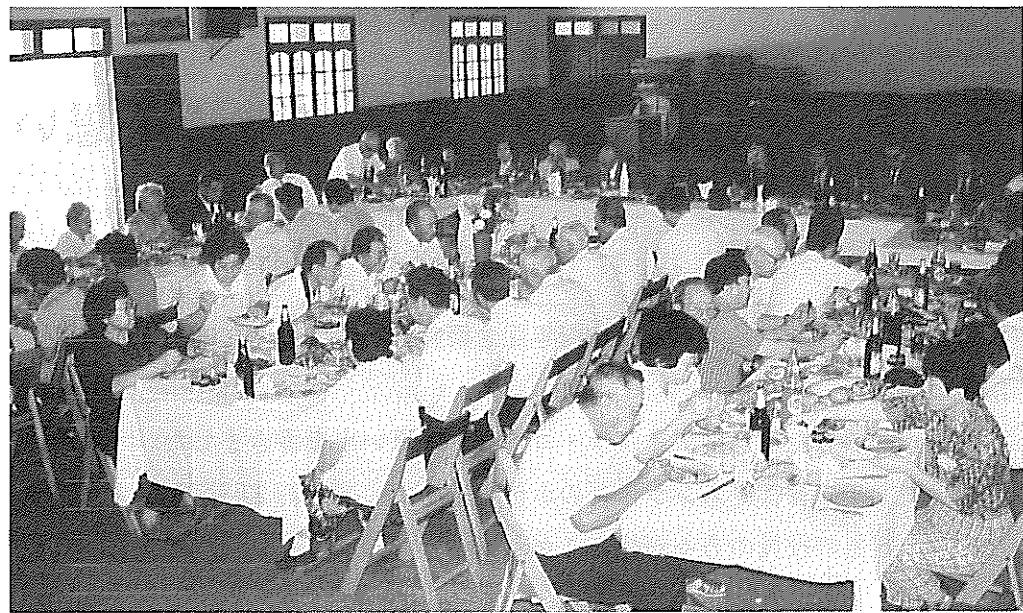
ラ・コルメナの皆さん、本当に有りがとうございました。

乾杯が終り目の前にはすべて当地で作った産物での真心の手料理がたくさん並んでいました。どれもこれもがおいしくて、日本においては添加物の中で生きている私達にとって何と羨ましい事でしょう。すべてが自然の物、これこそ何物にも勝る最高のもと



なしではないでしょ  
うか。いきおい懇談  
の花が咲きました。

移住されて長くて  
約60年、波瀾万丈の  
御苦しみの話を、お  
一人お一人が明るく  
楽しく語って下さい  
ました。話を聞き乍  
ら、ただひたすら日  
本人の誇りを固く維  
持して來た一念の強



さが波打って輝いている様でした。

96歳の男性のNさん、「お母さん達が苦労しましたよ。子供の教育と共に、主人と一緒に働いた。立派でした。」此の言葉に胸を打たれ、良妻賢母の日本女性の生きざまを見る事ができました。97歳の女性のKさんは、「今は一番幸せです。」と顔一杯に笑みを浮かべて話す姿には、人生の勝利者の貴録がありました。

日本語学校の生徒さん達が、日本の歌や地元の歌を披露して、又ラ・コルメナに咲く色々の花をたくさんプレゼントしてくれました。

大人の私達も、全員童心に戻って、手を取り、肩を寄せ合って童謡を歌いカラオケを歌いました。深い深い友情の花が会場いっぱいに咲き誇りました。

短い時間の中で、私は地球の裏側にある、ラ・コルメナの人達の社会には、日本で失われた日本文化が生きているのがはっきりわかりました。何と尊いことでしょうか。

全員で記念写真を撮り、「いついつまでもお元気で、お幸せに。」と互いの心で誓い合いながらお別れしました。

その時、後ろの方で泣いていたおじいちゃんの姿が印象的で忘れる事ができません。

「どうぞ何時何時までもお幸せに生きて下さい。」と心の底から祈る思いで一杯です。

もし再び、ラ・コルメナを訪れるチャンスがあったならば「南十字星」を仰ぎながら、そして、ラ・コルメナのワインを交わしながら、長い間の苦労話を思う存分聞かせて頂きたい。そしてお互いにこれから的人生を心ゆくまでゆっくりと語り合いたいものです。

見えなくなるまで手をふりながら、ラ・コルメナを後にしました。

途中、私達の自動車の目の前を、牛が一頭ゆっくりと横断して行きました。

ラ・コルメナならではの風景でした。

地球の裏側に、そして日本の23倍もある広大なブラジル又パラグアイは、本当に良い所でした。

参加出来た事に心から感謝しております。

## 3. 会員増強運動について — 単位クラブの事例 —

## 女性部で取りまとめた指針

会員増強について、実践を通して研究協議を重ねた結果下記の 4 項目を重点として取り上げました。これらを参考にしながら、それぞれの地域性を活かした方法を考慮して、実践にうつすべくご尽力下さい。

### 記

#### 1. 自治会、民生委員等とのつながりを持つと良い。

(クラブの新年会等との会にご招待する、敬老会の折りに老人クラブと一般高齢者との交流を図る)

#### 2. 老人クラブ活動を知ってもらう。

(友愛活動、資質向上の研修会、施設見学、親睦旅行、運動会、作品展、文化祭、芸能大会、ふれあいの店その他地域の特性を活かした活動は沢山ある)

#### 3. 会員増強は組織全体で取り組む。

(会長始めとし全員で会員各自の近隣の未加入者を訪ね親睦を深めながら加入をすすめる)

#### 4. サークル活動を活発にする。

(町内会を重点として、公的機関と連絡をとり、町内会運動会、区民祭り、公民館文化祭に、意欲ある姿を地域の人に知ってもらう)

◎要は、単位クラブが時代に添った魅力ある活動の実践が原点である。

## 会員増強について

轟町南老人クラブ延寿会会长 広 居 量 一

### 〈普段の活動が仲間をつくる〉

#### 会員の増強——クラブの活性化

ことばや文字なら何とでも言えるし書くこともできる。が、行動の段階ではいつも悩む。筋書きがそのまま通らないからです。ガラにもなく会長を引き受けてからずっと試行錯誤をくり返してきたのもこのためでした。こんど広報部から「南延寿会の会員増強とその成果」について具体的に書くよう求められたが、目新しいものは何一つない。表題がそのままというわけですが、結果だけのレポートより結果が出るまでの過程——私に言わせれば試行錯誤の基になったような 2、3 のことについて触れてみたいと

思います。

#### 〈静から動への切替え〉

地域のなかで職住を一つにしている人は俗にいう会社人間のようにタテの関係よりヨコのつながりを大事にしている。老人クラブ自体がヨコのつながりで成立しているようなもので、昔の影を引きずっていては開かれた活動は望めない。だから地域人間は比較的早く溶けこめるが、職住を別にしていた人はなかなか地域に馴染めない。もっとも戦前、戦中、戦後と激動の昭和を生きぬき、やっと安らぎの老を迎えた人達は、地域人間であろうと会社人間であろうと一様に「静」を求めて「動」を避ける。老人クラブは組織ですし、行動する集団である以上動体である。静から動への切替えのむずかしさ（入会するまでのむずかしさ）がここにある。やはり時間であり、動機であって、理屈の押しつけは成り立たない。

#### 〈具体的な取り組みについて〉

サラ地に家を建てるのと違って、60有余年、山坂を登ってきた老齢者はみんな、それなりの形をもっている。こうした人たちを一つにまとめることはやりがいもある半面、煩わしさもともなう。会長になり手がない遠因もこの辺にあるのではないか。

そこで南延寿会の場合は、仲間づくり以前の問題として「知らせる」「知ってもらう」ことを重点におく活動にとりくんだ。会には昔から例会お知らせのようなものがあったが、前に述べたような様々な事象への対応、そして一緒に考える広場として会報を発行することにしたわけだが、単発ではしみこまない。どんなことがあっても月1回1日発行の原則をまもる——継続することにした。10月で53号だから、2年半のフォローがやっと陽の目をみた感である。

#### 【仲間づくりの一例】

##### 〈得手、不得手を掘りおこす〉

千葉公園の早朝散歩で知り合ったKさんは60代の男盛り。偶々話題になったのがグランドゴルフ。聞けば現役時代はゴルフ歴もある。そこで例会に誘った。もちろん会の活動や入会もすすめていない。ただ、例会が0の日であること、0の日は清掃の日で町内清掃が済んだ後、例会、というだけの説明はしたという。はじめは違和感を持たれたようだが、2～3回と続けるうちにすっかり溶けこんできた。月が改まった最初の0の日、Kさんは軍手にゴミ袋をもって現れた。勿論会員登録を自分から申し出たことはいうまでもない。

得手、不得手の掘りおこしが実を結んだわけだが、カラオケクラブでも同様のことがあるが、この方は女性でまだ入会までに至っていない。

(注) 南延寿会のサークル活動は会員以外、或いは地域外の人でも申出があれば一緒にやっている。勿論、入会には申合事項があるが、オープンに近い。グランドゴルフには地域外の女性4名、カラオケには非会員女性1名のほか、身体不自由な若い女性も参加し、会員はボランティア的な活動もおこなっている。

#### 〈地域の活動のなかで〉

世代を超えた交流の場として、地域の生協が作ったコミュニケーション&リフレッシュ（略称コミリフ）がある。不肖生協の理事長であるため代表となっているが、運営委員には町内役員とまじって南延

寿会からも参加しているが、コミリフは地域の活動の発信地的役割を果たしている。町内カラオケ大会やグランドゴルフ大会をつくり、育てる温床ともなった。特に老人にやさしい町づくりをキャッチフレーズにした南延寿会の環境問題への取り組みが町ぐるみの仕事に発展し、環境モデル地区指定の基になったばかりでなく、地域住民の南延寿会の存在再認識にもつながり、会員増強への強い支えともなっている。

#### 〈ボランティア的な役割を求める〉

前例とは少し異なるが、明らかに目的を打ち出した会員募集であるが、期待以上の成果を挙げることが出来た。目的がズバリ活動に結びつくかどうかはこれから問題であるが――。

キャッチフレーズは“あなたの若さと力を貸して下さい”

南延寿会の会員121名の年齢別構成は69歳以下8.3%、70～75歳28.9%、76～80歳29.8%、80歳以上33%である。3割以上が80歳以上となると旅行一つとっても、たすけ合う仲間がほしいわけで、この実態を理解してもらうことから始めたのであるが、9月中旬に62歳、65歳、68歳の女性3名と67歳の男性1名が仲間入りし、別に73歳の男性1名の入会を果たした。

長いレポートになってしましましたが、冒頭にも触れましたが、表に現れた現象もさることながら、裏ともいべきプロセスの方がより大切だと思ったからでした。

書きおえた時点で手前味噌が多いなと思い、寄稿を躊躇しましたことを附記し、ご批判を頂戴したいと思います。

### ~~~~~南延寿会に新しい風を~~~~~

南延寿会はひらかれた老人クラブです。

あなたの若さと行動力を待っています。

#### 活動のあらまし

- 住みよい街づくり……毎月ゼロのつく日、これが私たちの清掃日。そして、花いっぱい運動――。
- 生きがいと健康づくり……春秋の旅行、踊りやカラオケクラブ。そして、グランドゴルフに輪投げ――。
- たすけあい、いたわりあう……自分のクラブだけでなく、また会員だけでなく幅広く手をつなぐ活動。そして、自分が出来るものを見つけて積極的にとりくむ――。
- 地域との交流……いろいろなイベントや行事に参加。そして、世代の違う人たちとの交流――。

主な活動の予定や結果は、毎月発行している会報をご覧ください。

※会報はお申出があればさしあげています。

轟町南老人クラブ延寿会 〈043-251-2625 広居 量一〉

## 仲間を増やす活動を求めて

悠友クラブ会長 深 山 太 一

北大宮台の老人会が解散してから二年余りが過ぎた頃、「仲間が集まり、楽しいひとときを送ることが出来るような会が結成できないものか」との声が上りました。

初めは、実際に何人ぐらいの人が集まるだろうかとの不安があり、その結成を躊躇していましたが、次第に、「是非、会の結成を」との気運が高まり、まず、「回覧」により加入者を募るとともに、自治会の役員会や町内のバレー、テニス等の同好会が開催された時に出向き、趣旨説明をし、加入を呼びかけました。その結果、何と58名（60歳以上の正会員が48名、60歳未満の賛助会員が10名）という予想以上の人々が会員となり、平成5年11月20日に『悠友クラブ』が発足しました。

これ程多くの人が会員になったのは、月1回の行事の内容が楽しそうであり、仲間と団欒できそうであること、本会の特色の一つ、60歳未満の人達も参加できること等に魅力を感じたからのようです。

発足以来、満2歳を迎ますが、退会する人もなく、逆に、仲間が75名と増加傾向を示しています。  
(正会員=男17名・女41名、賛助会員=男6名・女11名)

そして、男の最高齢者は92歳、女の最高齢者が91歳であり、「健康と親睦」をモットーに楽しく活動を続けています。毎月の行事では、一同が「こんなにちは。元気でいいですね」との声を掛け合い、一ヶ月ぶりの再会を喜び合い、友情を深めております。

そこで、本会の主な活動について紹介します。

- ① 賛助会員は、毎月の行事の運営にお手伝いという立場で出席していただき、先輩との交流にも積極的に参加していただいております。また、行事の案内の配付や会費の集金等を兼ねて家庭訪問をしていただいております。正会員はこの賛助会員の訪問を楽しみにしています。
- ② 各行事が「参加してよかった。次の行事が待ち遠しい」と思われるようにするため、毎月1回、役員会を開催し、具体的な内容の検討、詳細な実施計画案の作成、役割分担等を決定しています。
- ③ 各種のサークル活動の活発化を目指して、旅のサークルは、年2回の日帰り旅行を計画し、旅行計画、現地の下見、ガイド資料の作成、当日の世話等を行っています。また、スポーツクラブでは地区の運動会への参加、夏の早朝のラジオ体操、その終了後にはグランドゴルフの練習等を計画し、会員の参加を呼びかけています。
- ④ 毎回の行事では、「ふるさと」「おぼろ月夜」等の懐かしい歌を合唱しています。先日の千城地区連合会のふれあい演芸会で発表し、見事3位になりました。これを機に「合唱団」をつくり、意欲的に練習に励んでいます。
- ⑤ その他の行事では、新年会、講演会、会食、施設見学等があります。中でも、講演会は、会員のアンケート結果で演題を決めており、次回は腰痛について予定しています。

このように、本会は、和やかな雰囲気の中で、ゆっくり、くつろいだ一日を送ろうと、様々な行事を計画しています。今後とも、出来るだけ会員の希望を取り入れ、役員会で検討し、魅力的で、有意義な会の運営に努めたいと考えております。

## 幕張西老人クラブ若葉会の取り組み

### お誘い

高齢者の皆さん！ 幕張西老人クラブ若葉会にご入会ください

若葉会は地域社会に密着した高齢者の集いの場です。発足して20年になりますが、現在は90余名の会員が相寄って友愛活動や心身の健康増進に楽しい努力を続けております。戦後50年という節目を迎え、歩んできた人生を振り返ってみると数多くの苦難を背負ってきましたが、与えられたこれから生涯をさらに充実させたいと考えます。自助・互助の努力や友愛があってこそ生き甲斐ある余生と言えましょう。

みんなで手を取り合って、この若葉会を充実させたい思います。みなさんのご加入を心からお待ちいたします。(60歳以上が正会員、若い年齢層の青年部も歓迎)

下記宛にご一報くだされば地区幹事がお伺いして、ご加入の手続きをいたします。

千葉市美浜区幕張西5-9-1

会長 稲田和義

☎ 276-5605

年会費はお1人2,000円です。

#### 主な行事

社会奉仕……毎月第2木曜日に清掃奉仕（健康で丈夫な方だけ、あとはお茶当番）

例会……清掃作業終了後、町内会館で会歌、唱歌などを楽しみながらお話し会

研修の日……毎月第4木曜日、他機関と連携を取り講演、座談会、歌の指導など

#### 年間行事

日帰り研修旅行……5月には清水公園、キッコーマン醤油を見学しました

1泊（又は2泊）研修旅行……最近では房州小湊・中屋ホテルでレクリエーション

地区連の芸能大会に出演、美術展に諸作品の展示参加

地区連の研修旅行に参加

#### サークル活動

健康体操……第1・2・3水曜日

踊りの会……毎週金曜日

ゲートボール……月・金を除き毎日

詩を味わう会……第3火曜日

その他

#### 最近の研修の日の行事予定

6月22日……歌のおけいこ

7月27日……社会福祉協議会との座談会

8月24日……シンポジウム

(戦後50年の足跡と希望)

自治会のみなさんの参加を歓迎します

## 4. 友愛活動

## 介護ボランティアに参加して

若葉地区連 来 生 三

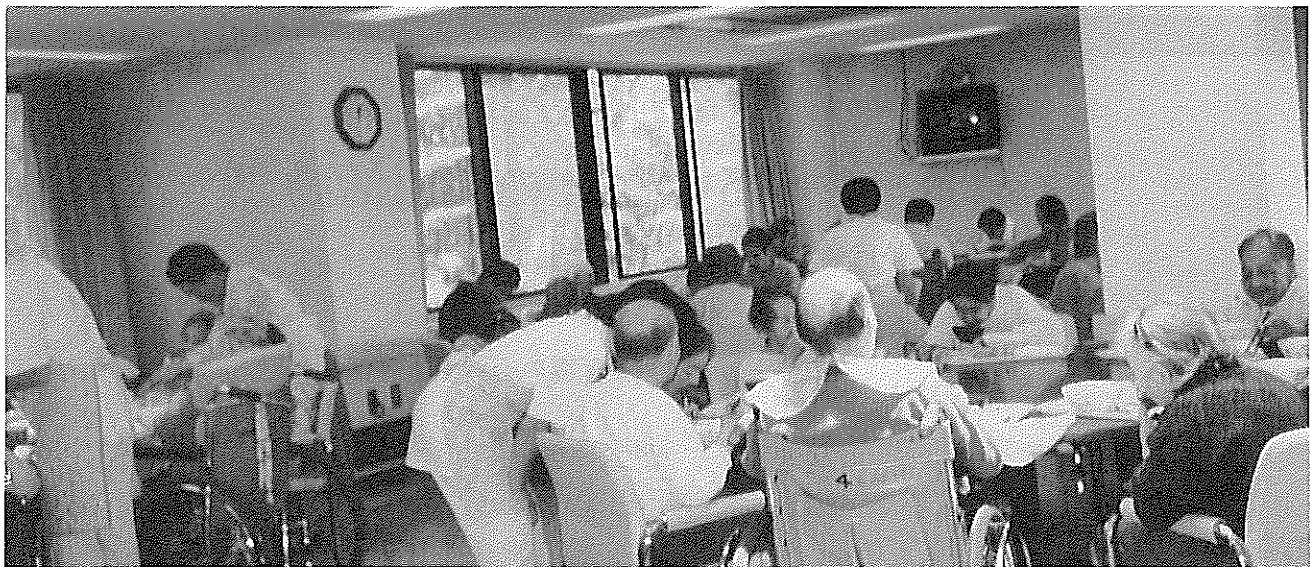
若葉地区連では、「友愛運動」を進めていく準備として、毎月 1 回、更科ホーム（特別養護老人ホーム）に 6 人から 12 人を派遣して、介護の専門家から指導を受けながら、その手伝いをするというボランティア活動を続けています。

私が地区連全体の窓口となり、女性副部長他 3 人をスタッフに、実際の稼働人員は各単位クラブから交替で出して頂き、各クラブでは少なくとも年 1 回は実際体験をするという建て前です。毎月の稼働は、更科ホームの月別予定によって相談の上決め、当月の稼働担当クラブを順序によって指定します。

派遣人員が決まると、私とスタッフの中から交替で 1 人がキャップとなり引率します。その時、担当クラブの会長は、可能な限り同行し、介護活動の実際を見学体験することになっています。稼働ボランティアには、毎回更科ホーム側とのミーティングがありますが、その中で更科ホームの責任者が明らかにした経営の基本理念を、先ず、簡単に申し上げましょう。

【更科ホームでは、設立当初、家庭介護で一番苦労するのは、何であろうかと考えた時に、それは痴呆のお年寄りであるとの結論に達し、その様な方々をお預かりすることこそホームの役割であり、施設の存在価値に応えるものであるとの認識から、痴呆のお年寄りを積極的に受け入れることに努めて参りました。（私は、一番嫌な仕事だと思っていただけに、改めて感心した次第であります。）開設から暫くは無我夢中で、何かやらなくちゃ、という使命感ばかり先走り、これだという確信の持てる方法を実現できませんでした。しかし、幾多の暗中模索の中でいろいろ勉強し、試行錯誤を重ねた結果、今では、更科ホーム独自の介護方法を発見し、それを実行できて、痴呆性老人介護に微かな光明を見出せるまで





になりました。(たいへんお仕事であり、ほんとに感動的なお話でした。)】

それでは、これまでやってきた仕事のいくつかについて簡単に説明します。

- ① [洗濯物畳み] ——お風呂の日（毎週火・金）の翌日、1人1人が脱ぎ捨てた衣類は山のようです。洗濯し、乾燥したものを名前が見えるように畳み、所定の棚に収容します。
- ② [生花教室] ——ハサミの使い方など手をかしてあげます。自分のは自分の見えるところにおいてくれ、などと注文も出ます。美しく鮮やかな材料を見事に活ける男性もおりました。18名位でした。
- ③ [お鍋の日] ——ひと月に1、2度ある、入所者にはたいへん喜ばれるイベントだそうです。1人で食べられない人が居りますのでおかゆスプーンで少しづつ食べさせるとか、手づかみでおかゆを食べる人も居て、しかし、全体として皆さんおとなしく、あぱれる人など居ませんでした。全部きれいに食べていました。
- ④ [お花見会] ——平和公園にバスで出掛け、芝生での弁当会食のお手伝い。野外でいい空気を吸って、精一杯楽しんでの1日でした。
- ⑤ [納涼まつり] ——これから夏の盛りに予定されている行事です。施設の前庭にセットされます。
- ⑥ [お買い物] ——小人数の人達が、車椅子で実際に街にショッピングに出掛けるのを介助する仕事で、一番体力が要る仕事です。

このようにいろいろホームでの行事があり、その際外部の人々と接触し、直接会話をする事が痴呆にはたいへん効果があることが実証されつつあります。施設側では、私たちのこうしたささやかな運動にもたいへんな感謝の気持ちを表明してくれています。

確実に進む高齢者社会、私たち自体痴呆にならないという保証はなにもないわけで、もしなってしまえば、自分には「過去」も「未来」も「現実」も失われるわけですが、それだけにその社会的対策が気になるところです。ホームの若い職員（約50名）は一生懸命になって私たちに手本を見せてくれました。その真面目な仕事ぶりを見ているだけで感動します。

老人会の皆さん、一度は実際にご覧になって、痴呆の現実に触れて見られる事をお勧めします。

(終)

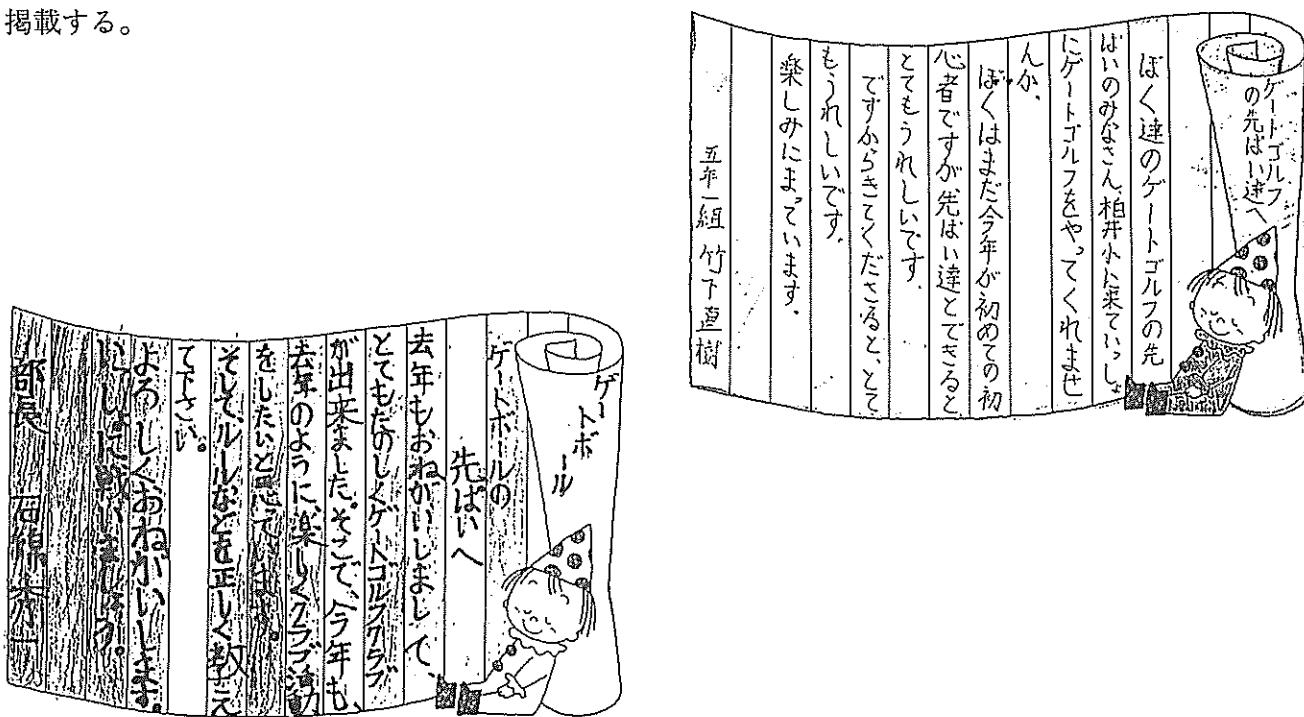
## 5. 小学生との交流活動

## 地元柏井小 5 年生との交流活動 —ゲートボールを通じて—

花見川地区鷹の台いずみ会会長 三 矢 金 吾

昨年の 9月初め、地元柏井小 5 年男子の、ゲートボール部の11名から、可愛い絵入りの手紙を私宛に頂戴した。内容はほとんど同じで、「ゲートボールの先ぱいへ」という書き出しで、「初めてやるので教えて下さい。」というのである。早速いずみ会のゲートボール部長の松戸さんに連絡し、又柏井小の山崎登美子校長先生にもお電話をして、9月21日の午後、柏井小のグラウンドで、初めての交流試合が行われた。それ以降月 1 回程度のスペースで子どもたちと老人の心の温まる交流が続いている。

そして今年も又、昨年と同じような手紙が、今度は松戸さんに届けられた。そのうちの 2 通をここに掲載する。



なお、このゲートボールの交流をきっかけに、柏井小の運動会に校長先生から、柏井小地区の老々の会長宛招待状が送られ、グラウンドにテント張りの敬老席が設けられ、久しぶりに小学校の運動会を楽しむ機会を与えられた。

さらに、又昨年11月柏井小で学芸会が行われた時、先生方や、PTA の父兄の作品に混じって、老々会員の作品も数点、校長先生の要請で出品展示されることになった。

ところで、うちのクラブ以外にもゲートボールを通じて、小学生と交流しているクラブがあるはずと、捜していたら幕張地区幕張西老人クラブ若葉会の高橋会長から、去る 9 月 30 日朝日新聞千葉版に掲載されたという記事のコピーが送られて來たのでこれを加える。



▲柏井小五年生との初めてのゲートボール  
～一番左端は柏井小山崎校長先生～

### 恩返しへゲートボール

千葉 葉

「ほい、緊張をちやんと  
じて」。千葉市美浜区幕張  
西二丁目の幕張西公民館グ  
ラウンドで二十九日、地元

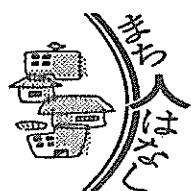
老人会のお年寄りと学童保  
育所を通る幕張西小学校の  
子供たち計五十人ほどが集

まり、ゲートボールを楽し  
んだ(写真)。

老人会に励ましの手紙「は  
あとめーる」を約百通送つ

た。「お返しをしたい」と  
いふお年寄りの声に応え  
て、千葉幕張西郵便局の高  
梨園子局長(西が)が企画し  
た。

近くの県営住宅に一人で  
住む井田やつ子さん(60)は  
「かわいいねえ」と目を細  
めながら、子供たちにボー  
ルの打ち方を教えていた。



## 6. 地区連ニュース

## 会 旗 紹 介

## 1. 会 旗 名

北地区連合会旗

## 2. 会旗寄贈者

高橋勝蔵・芳江 御夫妻  
(長沼若葉会会員)

稻毛区長沼町288番地在住  
TEL 043-254-3605

## 3. 寄贈の機縁

北地区連の婦人部長並千葉市老人クラブ連合会婦人部副部長として長年御活躍され、



平成 5 年 3 月、高齢の由で離任されるに当たり、御主人 勝蔵様（且て地元老人クラブ会長や会計担当の経験のある方）と相計られて、地元の地区連の皆様になみなみならぬ御厄介、御支援いただいた御恩に対し、感謝の微意を表したいとの願いと、更には地区連が益々充実発展への手助けになるようなものを記念品として、寄贈したいと当時の新生清蔵地区連会長（現市老連副会長）にご相談になりました、御三人で会の象徴である会旗が最も適切であるとの意見が一致して寄贈することになったとお聞きしました。更にこれの製作についての一切も新生副会長様に御一任されたとのことです。



高橋御夫妻

北地区連合会は千葉市の政令都市指定直後の市老連の改編に伴い、旧第 5 地区連と旧第 8 地区の一部の単位クラブが合併した地区連で現在は以下のとおりです。

|          |                     |
|----------|---------------------|
| ク ラ ブ 数  | 16 クラブ              |
| 会 員 数    | 800 余名              |
| 地区連会長    | 矢尾板 正 男             |
| 会旗の保存管理者 | 近 藤 善四郎<br>(山王陸会会長) |
|          | 稲毛区山王町34-12         |
|          | TEL 043-422-7418    |

#### 4. 会旗贈呈式

平成 5 年 9 月、草野公民館講堂で、北地区連合会の会長会（単位クラブ会長と婦人活動推進部部長）の席上、当時の新生地区連会長に贈呈され、出席者一同から万雷の拍手のうちに手渡され、厳粛な贈呈式を終えたとの由です。

今後は北地区的象徴として全ての行事に持ち出し、永遠の至宝として活躍することでしょう。

最後にご寄贈の高橋勝蔵様・芳江様の御厚意に感激し、謝意を表して会旗の紹介を終わります。

追記：記事は新生副会長より提供されたものを、広報部で一部訂正させていただきました。

(文責：広報部 長谷川)

#### 編集後記

「ちば市老連だより」第 4 号を御届けします。

去る 8 月下旬、積年の念願であった市老連の法人化が県知事の許可によって実現し、その法人設立記念式典が、11 月 28 日、ちば玉姫殿において千葉市長はじめ多くの来賓を御招きして、盛大に開催されました。

本号は、巻頭にこの式典および祝賀会の模様を登載し、次いで 8 月末、ブラジル日系老連創立 20 周年祭に参加した、宮口みついさん・大田和光子さん（花見川区老連女性部会員）のブラジル及びパラグアイ訪問記を特集しました。又、前号に続いて老々会報による広報活動を活用しての会員増強の成果をあげている単位クラブ会長方の報告を取りあげました。

最近、会員の投稿もぽつぽつ寄せられるようになり、今後に期待しております。

よろしく御支援の程、御願いします。

投稿先 〒260 千葉市中央区中央 1-3-1

千葉市社会福祉事業団ビル内

社団法人千葉市老人クラブ連合会 事務局あて

編集・発行

社団法人 千葉市老人クラブ連合会 代表者 波多野 透  
千葉市中央区中央 1-3-1 (千葉市社会福祉事業団ビル内)  
TEL 043(224)2050

第 4 号

# 冒険小説のような島 奄美大島



■出発日／平成8年6月22日～  
6月24日

■旅行代金／¥79,000

県知事登録137号

## (株)東京旅行開発

TEL 043-225-6621

担当者 工藤 和也

さいはて旅情にひたる！  
**利尻島・礼文島と  
道北の旅**



宗谷岬、利尻富士、スコトン岬など、新鮮な海の味覚と大自然を満喫できる感動の旅です。

実施期日／平成8年8月21日～24日  
旅行費用／159,000円

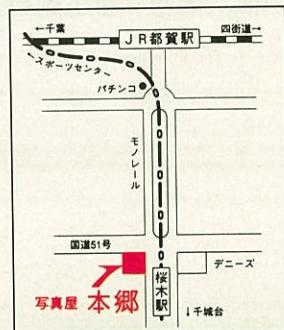
お問い合わせ・  
お申し込みは **(株)明友旅行**  
☎043-241-5021

## 超特急45分 カラープリント (通常仕上げ3時間)

- 証明写真 ●七五三記念写真 ●成人記念写真
- お宮参り ●家族写真 ●お見合い写真 ●学校卒業アルバム製作 ●記念行事の記録写真及びアルバム印刷

営業時間/  
AM10:00～PM7:00  
定休日/毎週木曜日

モノレール  
「桜木駅」際



## 写真屋 本郷

〒264 千葉市若葉区桜木町332-2 TEL 043(231)9394

## いま、注目のチャペル

柏 **マリアチャペル** 玉姫殿 ちば

千葉ポートタワー前 ☎247-5511

●病院から ●ご自宅葬 ●ホール葬 ●社葬

立派なご葬儀 敬愛の心

ホール会場ご使用料無料

**(株)セレモニ**

穴川ホール ☎252-4444  
作草部ホール ☎255-4444